



STOIC RECORDSが放つ第2弾アーティスト ANOTHER STORY OF THE OTHER SIDE (通称ASOOS) が 渾身の1st EP『BUT I SHOULDN'T STOP HERE』で全国デビュー！

大阪のエモーションナル・ピアノ・ロック・バンドANOTHER STORY OF THE OTHER SIDE、通称ASOOSが、初の全国流通盤となるEP『BUT I SHOULDN'T STOP HERE』をリリースする。STOIC RECORDS第2弾アーティストとして、先輩であるSilhouette from the Skyllitに追いつけ追い越せの気概を持つメンバー5人組が放つ今作は、スクリーム・パートやディストーション・ギターがしっかりと存在感を主張しつつも、美しいピアノや驚くほど澄んだヴォーカルの声色が清々しい、“二面性”を前面に押し出した仕上がりとなった。聞けばその音楽性は一貫したコンセプトのもと作られているとのこと、その表現はサウンドのみならず歌詞の内容にまでしっかりと投影されている。彼らが持つ“二面性”とはどのようなものか？純度100%のクリーン・パートと荒々しいシャウト・パートを巧みに使い分け、一身体で“静と動”を表現するヴォーカル、Shoutaを中心に、メンバー全員がメール・インタビューに答えてくれた。

Shouta (Vo) Junya (Key/Gt/Cho) Kyosuke (Gt) K-suke (Ba) UG (Dr)
インタビュー：小林 詩央里

ー激ロック初登場となりますので、自己紹介をお願いします。

一同：はじめまして！大阪のエモーションナル・ピアノ・ロック・バンドANOTHER STORY OF THE OTHER SIDEです！

ーバンド結成の経緯と、これまでの活動について簡単に伺ってもよろしいでしょうか？

Shouta：バンド結成は2011年7月にShoutaがSNSを通じてメンバーを集めたことから始まりました。そのあと数回のメンバー・チェンジを繰り返し、ベースで加入したJunyaがギター&キーボードにシフトするなどの変遷を経て、去年の8月にサポート・ギターだったKyosukeが正式加入したことで、現状のメンバー構成に落ち着きました。激動の変遷を経て現在オリジナル・メンバーは僕だけです（笑）

ー“ANOTHER STORY OF THE OTHER SIDE”というバンド名の由来を教えてください。

Shouta：直訳すると“反対側のもう1つの物語”という意味です。物事の見え方って角

度によって大きく異なってくると思います。その相反する事象（光と闇、希望と失望、正義と悪など）を赤裸々に表現していきたいという思いでこの名前にしました！そのコンセプトのもと、曲作りをしているので、静と動がバツキリした緩急のある楽曲が多くなっていると思います。

ー“エモ・ピアノ・ロック”を謳っていますが、メンバーの皆さんはどんな音楽から影響を受けたのでしょうか？よろしければ好きなアーティストを踏まえて教えてください。

Shouta：僕はTHE USEDやFINCH、SAOSIN、HOOBASTANK、LINKIN PARKなどから大きく影響を受けています。洋楽エモ/スクリーモ・シーンから10年程前に衝撃を受けて以来、ずっと僕の音楽のDNAになる部分だと思ってます。メンバーはALESANA、the HIATUS、澤野弘之、宇多田ヒカル、阿部真央、L'Arc-en-Ciel、SLEEPING WITH SIRENS、PIERCE THE VEIL……などで、聴くジャンルの幅は広いですね！

ー1st EP『BUT I SHOULDN'T STOP HERE』リリース決定おめでとうございます。現在までに2枚の音源を出していますが、どの作品もジャケットに佇む人の姿が小さく写っていることが気になりました。何かのメッセージ等があるのでしょうか？

Shouta：ありがとうございます！先ほど相反する要素を表現したいと言いましたが、

“静と動”をコンセプトに、光と闇、希望と失望、正義と悪など 相反する要素を赤裸々に表現していきたい

特に人間の内面にある相反する要素を表現したいという気持ちが強いので、そのシンボルとして人の影を入れています。

ーEPのタイトル『BUT I SHOULDN'T STOP HERE』の由来についても教えてくださいませんか？

Shouta：このフレーズ“BUT I SHOULDN'T STOP HERE”はPVにもなっている「BOT」の最後のフレーズなんです。和訳すると“手を伸ばしても、触れることはできない、叫んでも、分かってもらうことはできない。ただここで止まる訳にはいかない”って歌詞のとこなんですけど、どんなことがあっても希望に向かって止まらないでほしい、というメッセージが込めてあり、自分の中ですごく好きなフレーズだったのでタイトルにしました。また、初の全国流通ということもあり、前向きに進んでいきたい、という僕らの意気込みみたいなものも表現しています。

ー今作はSTOIC RECORDSからのリリースですが、リリースを直前に控えた今のお気持ち聞かせてください。

UG：本当にうれしい気持ちでいっぱいです。いよいよスタートラインに立たな、という感じです。今の自分たちを詰め込んだ渾身のCDができた、と感じているので、早くみんなに聴いてほしくてうずうずしています！STOIC RECORDSの第2弾アーティストとしてSilhouette from the Skyllitに群くような、いや、むしろ抜かすような活躍ができるように頑張りたいです（笑）！

ーTrack.3『Rewrite Story』はメタリックでフレーズも音色も主張の強いギター・リフが印象的ですが、私は作品を通し、ギターにもエモーションナリティを感じました。激情的な音の運びは、歌や他の楽器とのバランスも考えながら作っているのですか？

Kyosuke：家で弟と相撲とってる時に思いつきました。やはり気持ちが高ぶっていたので、激しいリフになったのではないかと思います。

Junya：冗談はさておき……スタジオにこもってみんなで曲構成や、フレーズを考えていくことが多いので、ギター・ラインは常にメロディや他の楽器のことを意識しながら作っています。

ーTrack.6『Tomorrow's Feeling』は歌詞が特にストレートに耳に入ってくるサウンドですね。どのようなことを歌っているのでしょうか？

Shouta：この曲は自分の夢に向き合って書いた曲です。あんまりこういった表現は得意ではないんですが、いつも応援してくれるみんなに感謝と決意を伝えたくて、あえてストレートな表現で書きました。

ーTrack.2『BOT』ですがミュージック・ビデオも観させていただきました。これは恋についての歌ということでしょうか？映像踏まえ、この曲に込めたメッセージ聞かせてください。

Shouta：この曲は「Tomorrow's Feeling」よりも少し捻った歌詞になっています。僕は聴いた人が自分の中で自分のストーリーを組み立てられるような歌詞が好きなのでストーリーを特定できるような歌詞はあまり作りません。ただ、さっさとだけ説明させてもらうと……生きてく上では取捨選択が必要で、特に大人になると、自分もそうなんですが、捨てることに慣れてきて、何も感じなくなってしまうことが多くなる。その感情が失った状態がロボットみたいで、なんとなくさみしく感じてる。大事なものを簡単に捨てないでいてほしいというメッセージと、もしそれを失ってしまったらもう立ち直っていくことができるから！というメッセージを込めたつもりです。映像の女の子は最初倒れていて最後は立ち上がって歩いていくんですが、これは絶望の淵からでも自分の力で立ち直っていく、ということを表現しています。恋の歌かどうかの判断は……お任せします（笑）！

ーハイトーンなクリーン・ヴォーカルは純度100%！と言ってもいいくらい透き通った綺麗な声ですが、シャウト・パートもShoutaさんが歌っているのですよね？クリーンとシャウトという相反する要素を1人で表現することには大変さや、逆に面白さがあると思います。その辺りについて思う部分を聞かせてください。

Shouta：コンセプトである相反する要素の表現というところでシャウトは欠かせない表現方法の一つになっています。純度100%（ありがたいございます。笑）のクリーンとピアノのパートがありそこからシャウト・パートに移ることで静と動の表現が伝わりやすくなると思っています。クリーンが透き通るとするのは武器である反面、攻撃的な表現や、激情的表現には物足りなく感じる場面もあると思っています。シャウトはそれを補完してくれる表現方法だと思っています。

ー曲作りは誰が行っていますか？また、制作の方法や手順に関しても聞かせてください。

Shouta：KyosukeやJunyaがギター・リフを持ってきたり、僕がメロディ・ラインを持ってきて、そのネタからスタジオに集まって作りこんでいくスタイルですね！

ーミュージック・ビデオのYouTube総再生回数が13万回超、RED BULL LIVE ON THE ROAD大阪地区1位通過など、SNSでの影響力が強いようですが、何か工夫してやっていることや、他のバンドとここが違う！という部分はありますか？

Shouta：PVを作り、全国どこの人でも視聴できる環境を作る。その映像を見て興味を持ってくれたファンのかたとSNSでも交流をしていく。ですね（笑）！アーティスト感を出してファンの方と距離を置くのも悪くないですが、僕らの性には合いません！ファンのかたと近い距離で、同じ目線で会話をすることで、親身になって応援してもらえるバンドを目指しています。それは今後も変えたくないASOOSの理念の1つですね！

ーツアー・スケジュールが徐々に決定しているそうですが、どんなツアーにしていきたいですか？

K-suke：今まで知ってくれてる人をもっと好きになってもらえるような、そして新たに知ってくれた人にも好きになってもらえるようなツアーにしたいです。特に今回は全国流通なので今までのチャンネル以外から僕らのことを知ってくれる人も増えると思うのでそういった人たちと出会えるのも楽しみです！

ーANOTHER STORY OF THE OTHER SIDE、今後の展望を教えてください。

Shouta：夢は大きいんですが、近々の夢は東名阪ワンマンです！来年の早いタイミングでやれるように動いていきたいですね！

ー最後に、激ロックの読者にメッセージをお願いします。

一同：初のミニ・アルバム『BUT I SHOULDN'T STOP HERE』本当に最高のできになったと思います！ぜひぜひ1度手にとってもらえたら嬉しいです！まだまだこれからみんながワクワクするような面白いことをどんどんやっていく予定なので、今後もASOOSをよろしく願います！

LIVE INFORMATION

“But I Shouldn't Stop Here Tour”

2014年8月15日（金） 心斎橋 CLUB DROP

[ACT]
Against All Enemies / water weed / WHERE'S ANDY
Ascension / Laxity

[PRICE]
ADV ¥2,200 / DOOR ¥2,700

2014年9月6日（土） 上諏訪 ロックハーツ

2014年9月13日（土） 福岡 VIVRE HALL

2014年9月15日（月祝） 長崎 Studio DO

2014年9月25日（木） 心斎橋 VARON

2014年9月27日（土） 高松 RIZIN

2014年10月4日（土） 京都 MOJO

2014年10月26日（日） 仙台 MACANA

2014年11月1日（土） 心斎橋 VARON (Tour FINAL)

more info >> <http://asoos.net/>

